

NPO 法人都市災害に備える技術者の会 設立記念シンポジウム～5月15日神戸で～

## 「しのびよる都市災害に備えて」(報告)

2004年4月1日、「都市災害に備える技術者の会」は内閣府より特定非営利活動法人(NPO 法人)として認証され、4月14日には法務局への登記も終わり、正式にNPO 法人としての活動がはじまった。このNPO 法人は、(社)日本技術士会近畿支部建設部会が中心となって発足したものである。このたびNPO 法人の認証を記念して、第一回目のシンポジウムを一般市民の皆様も対象として5月15日に神戸市の阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターで開催したので報告する。

キーワード； 阪神・淡路大震災 災害対応 技術士 防災 NPO 法人

### 1. はじめに

5月15日にNPO 法人都市災害に備える技術者の会は、NPO 法人設立後初めてのシンポジウムを、神戸市の人と防災未来センター5階のプレゼンテーションルームで開催した。設立後約1ヶ月という短い準備期間で開催した初回のシンポジウムであったが、一般来場者41名の参加があり、講師・パネリスト等の方々を合わせると約50名であった。一般来場者の中には、数多くの技術士の方々がおられ、最後まで熱心に聴講された。

最初に、このNPO 法人の笹山幸俊理事長(阪神・淡路大震災当時の神戸市長)より、「区域・地域を跨いで実際に活動する人がいないと防災活動は成り立たない。そして、災害時だけではなく平素から災害時のことを十分に考えていなければならない。このNPO 法人には多くの経験を持つ技術士の方々がいるので、この活動にこれからも力を貸していただきたい。」と挨拶された。



写真1 笹山理事長挨拶

続いて、京都大学防災研究所巨大災害研究センター長・人と防災未来センター長の河田恵昭先生(このNPO 法人の副理事長・兼企画委員会委

員長でもある)が基調講演された。



写真2 河田副理事長の基調講演

河田先生は『しのびよる都市巨大災害』というテーマで、2時間近く熱のこもった迫力のあるご講演をされた。その中で「災害に対して関心を持っている人達でも、すぐに行動するのではなく、じっと情報を待ってしてしまう。その間に被災してしまう危険がある。」と情報化時代の弱点について説明され、また「いま地球は思春期に入っている。予想もしないところにニキビができるように災害が起こるようになっている。一方では、都市は糖尿病にかかっている。基礎体力が落ちているため、いままでであれば大丈夫だった程度のことであっても、簡単に被害がでてしまう。」と現代の都市の脆弱性について説明された。

そして「知らぬが仏かもしれないが、やはり災害が起こることを考えるときちんとした知識を市民が持つことはとても大切である。また、素人だけで会議しても防災や減災に対して効果的な対策は難しく、専門家の力が必要である。」と力説され

たところでは、聴講していたほとんどの人の体が固くなり、専門家の防災活動に対する社会的責任の重さを感じているようだった。

後半は、山田俊満副理事長がコーディネーターを務め、立場の異なる行政のお三方によるパネルディスカッションが行われた。



写真3 会場の様子

最初に、内閣府の渋谷和久防災担当企画官（本NPOの企画委員会委員）が「防災は、行政はもちろんのこと、社会の構成員が全員で取り組むべき課題だ。」そして、内閣府の中央防災会議に設置されている「民間と市場の力を活かした防災力向上に関する専門委員会」が広く市民からの防災に関するアイデアを募集しているので、多くの意見を寄せていただきたいと話された。

次に、神戸市の立場から内山祐周氏（前神戸市理事危機管理監）が、震災直後の市内の映像、復興計画、そして復興の定点観測についてビデオ映像を交えながら具体的に話された。震災の経験から学んだことはコミュニティの大切さであり、震災後防災福祉コミュニティが183団体結成され、神戸市もその活動に対して支援をしている。近い将来に発生が予測されている東南海・南海地震や、今後発生するであろう様々な災害に対して、来年1月に開催される国連防災世界会議などで阪神・淡路大震災を経験した神戸から『してきたコト。これからするコト・・・』を発信していきたいと話された。

最後に、泉南市長の向井通彦氏（技術士、本NPOの企画委員会委員）が、阪神・淡路大震災の際に、海からの救援活動に当たった話をされた。漁業組合間で連携をとり行われた救援活動は、非常に効果的で、東南海・南海地震でも陸路だけではなく海を使った救援活動が重要であるという考え方を示された。また自治体の限界についても言及され、自衛隊と自治体との連携の重要性や、災

害直後の建造物の安全性の判定については専門家の力が必要であると話された。



写真4 パネラーの皆様

NPO法人都市災害に備える技術者の会では、今後定期的に、今回のような勉強会を開催していく予定にしている。このNPO法人は下記に示すように、専門家が防災・減災の活動に関して社会的貢献を行うことを目的としている。この目的に賛同する各分野の技術士や防災に関心のある市民の方々ぜひともこの活動に参加していただきたい。

【目的】（定款より）

この法人は阪神・淡路大震災の経験をふまえ、土木・建築・都市計画の専門家・実務家・技術士及び幅広く技術に関心を持つ者が、一般市民に対して災害の予防から始まり、災害発生後およびその後の対処法まで含めた一貫性をもった対応への相談および対策の提案をするなどの防災・減災に関する活動を行い、安全な地域づくりに寄与することを目的とする。

NPO法人都市災害に備える技術者の会の情報は、随時ホームページ（<http://toshisaigai.net/>）に掲載しているので関心のある方は是非ご覧いただきたい。

最後に、今回のシンポジウムの会場を快く提供していただいた、人と防災未来センターの皆様、特に藤森氏には深く感謝をいたします。また、NPO法人設立等に対して多くのご支援をいただいた方々にも紙面をお借りして感謝申し上げます。

（太田英将記）